



節目旅行による 旅行需要の創出と地域振興

観光政策研究部 主任研究員 牧野 博明

本特集から得られた要点は、次のように整理できるだろう。

節目に旅行を行うことの意義

節目は人生の転換期であり、時代を問わず節目旅行は行われている。

「特集2座談会」では、山本氏から昔は節供(句)や成人儀礼などの節目に旅をする習わしがあったことが指摘された。現代では、山口氏や細川氏の指摘および「特集3市場調査」から、消費者および「同行者との関係づくりや思い出づくり、慰労などを目的として節目旅行を行うっており、若者を中心に「旅行を目的に節目を作る」という新たな傾向も見られるようだ。このように、節目と旅行は、これまでも、また、現在においても密接な関係があると言えるだろう。

節目旅行マーケットの現状と今後の可能性

人生における節目は基本的に誰もが経験するものであり、節目旅行のフック(きっかけ)は誰もが有すると言える。それゆえ、潜在市場は大きいと考えられるとともに、今後の有望な市場とな

る可能性は高い。

「特集3市場調査」では、節目旅行のマーケットは性・年代を問わず幅広く、相応のボリュームを持っていることを指摘した。定番の「新婚旅行」や「卒業旅行」以外の節目旅行にも注目が集まっている。また、普段旅行を行わない人も節目旅行の経験や、今後の参加意欲も一定程度見られることから、節目旅行マーケットは拡大の余地があると考えられる。また、節目旅行では普段の旅行よりも多く支払うとする人が多い点も特徴的であり、経済的な効果(旅行消費額の増加など)が期待される。



地域(観光地)の 節目旅行への対応

「特集4事例」などを踏まえつつ、地域が節目旅行に取り組み上で留意する点として、以下の3点を提示したい。

ポイント1

地域資源と「節目」の接点を見つける

節目にはさまざまな種類があることから、節目と関連づけられる地域資源も各地に存在するものと思われる。地域独自の資源と人生における節目との接点を見つけ、深掘りすることで、新



たな旅行需要の獲得が期待される。

【対応する事例】

- ・三重県鳥羽市では、世界で初めて真珠養殖に成功した地域特性と、結婚30年目を祝う真珠婚の節目に着目し、真珠婚式の商品化を実現した。

- ・島根県出雲地方では、昔から伝わる「縁結び」のコンセプト（資源性）を伝える上で、「恋愛」にフォーカスし、旅行会社と協働でパッケージ旅行などを造成した。

ポイント2

節目を「点から線」「線から面」につなげていく

一人の人生において、節目は一つ（一回）だけではない。同じ人の複数回の節目を地域が捉えることで、その地域がその人にとって特別な場所となり、繰り返し訪れるようになる（点から線へ）。さらに、子供や孫などその人の家族を巻き込むことで、家族全体にとっても特別な場所となり、世代を超えたリピーターとなることが期待される（線から面へ）。

【対応する事例】

- ・沖縄県では、卒業旅行などを契機に、プロポーズ、ウエディング、ハネムーン

ン、バウ・リニューアルという一連のカップルアニバーサリーにつなげていき、何度も沖縄県を訪れる仕組みづくりに取り組んでいる。

ポイント3

「旅行をすることが人生の節目となる」経験や演出を提供する

節目旅行を行う人に対し、特別感を得られるような経験や思い出に残るような演出を施すことで、地域に対する印象度や愛着度が高まることが期待される。

【対応する事例】

- ・四国遍路では、巡礼を行う過程での地域住民や他の巡礼者との触れ合いが特別な経験となっており、その価値が広く伝わり、現在では海外からも多くの人が訪れている。

最後に

本特集では、「特集2座談会」における専門家などからの指摘、「特集3市場調査」における消費者の節目旅行の経験や今後の実施意向、「特集4事例」における地域の取り組み事例をもとに、節目旅行の現状把握や今後の可能性、

地域が取り組む上での留意点などについて整理を行った。また、「特集2座談会」で山口氏が指摘したように、従来の観光研究では旅を二連の流れで捉えることがほとんどなかったとすれば、今回の試みは、今後の観光研究のあり方への問いかけを行った点でも意義があったかもしれない。

今回、節目旅行を「人生に節目をつけるために行う旅行」としたが、この定義は曖昧さを含んでおり、検討を深

める余地があるだろう。また、節目における旅行とその他の過ごし方との比較検討など、更なる調査の余地も残されており、事例もより深掘りする余地がある。本特集を通じて、節目旅行の期待値の大きさが注目すべきものであることが見えてきたことから、今後も引き続きその動向について注視していきたい。

（まさの ひろあき）



上：川平湾（沖縄、石垣島） 下：北谷（沖縄）